

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

学校の生徒は、先生と教科書にひっぱられて勉強する。自学自習ということばこそあるけれども、独力で知識を得るのではない。いわばグライダーのようなものだ。自力では飛び上がることはできない。

グライダーと飛行機は遠くからみると、似ている。空を飛ぶのも同じで、グライダーが音もなく優雅に滑空しているさまは、飛行機よりもむしろ美しいくらいだ。ただ、悲しいかな、自力で飛ぶことができない。

学校はグライダー人間の訓練所である。飛行機人間はつぐらない。グライダーの練習に、エンジンのついた飛行機などがまじっていては迷惑する。危険だ。学校では、ひっぱられるままに、どこへでもついて行く従順さが尊重される。勝手に飛び上がったたりするのは規律違反。たちまちチェックされる。やがてそれぞれにグライダーらしくなって卒業する。

優等生はグライダーとして優秀なのである。飛べそうではないか、ひとつ飛んでみる、などと言われても困る。指導するものがあつてのグライダーである。

グライダーとしては一流である学生が、卒業間際になって論文を書くことになる。これはこれまでの勉強といささか勝手がA。何でも自由に自分の好きなことを書いてみよ、というのが論文である。グライダーは途方にくれる。突如としてこれまでとまるで違ったことを要求されても、できるわけがない。グライダーとして優秀な学生ほどあわてる。

そういう学生が教師のところへ「相談」にくる。ろくに自分の考えもなしにやってきたってしかたがないではないか。教師に手とり足とりしてもらって書いても論文にはならない。そんなことを言って突っぱねる教師がいようものなら、グライダー学生は、あの先生はろくに指導もしてくれない、と口をとがらしてその非を鳴らすの

である。

そして面倒見のいい先生のところへかけ込み、あれを読め、これを見よと入れ知恵してもらい、めでたくグライダー論文を作成する。卒業論文はそういうものが大部分と言っても B ではあるまい。

いわゆる成績のいい学生ほど、この論文にてこずるようだ。言われた通りのことをするのは得意だが、自分で考えてテーマをもてと言われるのは苦手である。長年のグライダー訓練ではいつもかならず曳ひいてくれるものがある。それになると、自力飛行の力を失ってしまうのかもしれない。

こどもというものは実に a 的である。たいていのこどもは勞せずして詩人であり、小發明家である。ところが、学校で知識を与えられるにつれて、b 的になり、人まねがうまくなる。昔の芸術家が学校教育を警戒したのは、たんなる C ではなかったと思われる。1 を作ろうとしているのに、2 学校にいつまでもグズグズしてはいけけないのははつきりしている。

いまでも、プロの棋士たちの間に、中学校までが義務教育になっているのがじゃまだとはつきり言う人がいる。いちばん頭の発達の速い時期に、学校でグライダー訓練なんかさせられてはものにならない、というのであるらしい。

D には、グライダー能力と飛行機能力とがある。c 的に知識を得るのが前者、自分でものごとを發明、発見するのが後者である。両者はひとりの人間の中に同居している。グライダー能力をまったく欠いていては、基本的知識すら習得できない。何も知らないで、独力で飛ぼうとすれば、どんな事故になるかわからない。

学校はグライダー人間をつくるには適しているが、飛行機人間を育てる努力はほんのすこししかしていない。学校教育が整備されてきたということは、ますますグライダー人間をふやす結果になった。お互いに似たようなグライダー人間になると、グライダーの欠点を忘れてしまう。知的、知的と言っていれば、翔とんでいるように錯③

覚する。

グライダー^④専業[|]で安心してられないのは、コンピューターという飛び抜けて優秀な 3 能力のもち主があらわれたからである。自分で翔べない人間はコンピューターに仕事をうばわれる。

（外山滋比古『思考の整理学』による。一部改変）

問一 本文中の傍線部の漢字①～④と同じ漢字を用いる熟語を、それぞれの語群の中から一つ選び符号で答えなさい。

①優雅[|]

ア 絵ガ イ ガ楽 ウ ガ正 エ ガ鬼

②警戒[|]

ア ケイ態 イ ケイ験 ウ ケイ帯 エ ケイ察

③錯覚[|]

ア 自カク イ 資カク ウ カク実 エ 遠カク

④専業[|]

ア 感セン イ セン闘 ウ セン門 エ セン回

問二 空欄 A B に入れるのに最も適切な語句を、それぞれの語群の中から一つ選び符号で答えなさい。

A ア わるい イ ちがう ウ ずれる エ わからない

B ア 断定 イ 道断 ウ 雑言 エ 過言

問三 空欄 a) c に入れるのに最も適当な語句はどれか。それぞれの語群の中から一つ選び符号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|------|------|------|------|
| a | ア 客観 | イ 具体 | ウ 創造 | エ 象徴 |
| b | ア 散文 | イ 韻文 | ウ 漢文 | エ 達文 |
| c | ア 感動 | イ 反動 | ウ 能動 | エ 受動 |

問四 空欄 C に入れるのに、最も適当なものを一つ選び符号で答えなさい。

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| ア 感情論 | イ 同情論 | ウ 楽観論 | エ 認識論 |
|-------|-------|-------|-------|

問五 空欄 1) 3 に入れるのに最も適当なものを一つ選び符号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|------|-------|---------|------|
| 1 | ア 人間 | イ 飛行機 | ウ グライダー | エ 機械 |
| 2 | ア 人間 | イ 飛行機 | ウ グライダー | エ 機械 |
| 3 | ア 人間 | イ 飛行機 | ウ グライダー | エ 機械 |

問六 空欄 D に入れるのに、最も適当なものを一つ選び符号で答えなさい。

- | | | | |
|------|------|------|------|
| ア 学校 | イ 人間 | ウ 人生 | エ 自由 |
|------|------|------|------|

問七 右の文章が言っている内容に合うものを一つ選び、符号で答えなさい。

ア グライダーが美しいのは、風に逆らわずゆうゆうとして自由であるからである。

- イ グライダーにもエンジンをつけて、人間としての操縦能力をつける必要がある。
- ウ 自分で飛べない人間は、コンピューターを使わないほうが問題をおこさなくてよい。
- エ 現在の学校は人間をダメにしてしまうので、なるべく行かないほうがよい。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

今の季節、空が澄みわたる日には、すべてのものがはつきり瞳に映る心地がする。残暑のほてりもいつしか遠のき、気がつけば秋のただ中である。思うに任せぬ人の世を尻目に、天地のめぐりは律儀なものだ。〔ア〕

ひと月前はまだ暑かった。「せめて秋の気分を」と思いススキを花瓶に挿したと書いたら、いくつか便りをいただいた。ある地方ではススキを屋内に飾ると火事を出す、との言い伝えがあるそうだ。彼岸花もだめ、という所もあるらしい。〔イ〕

なるほど、彼岸花は群れ咲く姿が紅蓮の炎を思わせる。火事への連想はうなずけるが、はて、ススキはなぜだろう。そういえば、〈夕焼、小焼、薄のさきに火がついた〉という童謡が北原白秋にある。〔ウ〕

ススキは地味ながら、古来ファンが多い。清少納言も大いにほめている。〈秋の野のおしなべたるをかしさは、薄こそあれ〉。秋の野の風情はススキのおかげよ、と礼賛されて、ススキ一族は鼻高々なことだろう。〔エ〕

秋台風が去って、列島の空はおおむね澄み渡る。日本晴れの語に季節の決まりはないが、やはり秋がふさわしい。晴れあがった夜は冷えて、木々は錦の刺繡を織りなしていく。

盛りの紅葉は、初霜前線を抜いたり、抜かれたりしながら南下するそうだ。〈霜葉は二月の花よりも紅なり〉

の名句が唐詩にある。霜を経た紅葉は春の花より赤い、は詩的誇張ではあるまい。□ ような山の粧よそおい、きよ
うほどのあたりまで下りて来たか。

(朝日新聞『天声人語』二〇一二年一〇月二二日による)

問一 本文中の傍線部の漢字①～⑤と同じ漢字を用いる熟語を、それぞれの語群から一つ選び符号で答えなさい。

- | | | | | |
|-------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| ① 澄み | ア 前 <small>チ</small> ヨウ | イ 順 <small>チ</small> ヨウ | ウ 清 <small>チ</small> ヨウ | エ ち <small>ヨウ</small> 越 |
| ② 映る | ア エイ枯 | イ エイ響 | ウ 反エイ | エ 気エイ |
| ③ 任せぬ | ア 委ニ <small>ン</small> | イ 隠ニ <small>ン</small> | ウ 容ニ <small>ン</small> | エ ニ <small>ン</small> 情 |
| ④ 織り | ア 潤シ <small>ヨク</small> | イ 誤シ <small>ヨク</small> | ウ シ <small>ヨク</small> 務 | エ 紡シ <small>ヨク</small> |
| ⑤ 抜い | ア 懲バ <small>ツ</small> | イ 討バ <small>ツ</small> | ウ バ <small>ツ</small> 群 | エ 派バ <small>ツ</small> |

問二 傍線部 a b c の文中での意味として最も適当なものを、それぞれの選択肢から一つ選び符号で答えなさい。

a 尻しりめ目に

ア 構わずに事を行う

イ 顔を向けずに見る

ウ 後方を気にして見る

エ 注意しながら事を行う

b 律儀

ア 不規則的なこと

イ 健康なこと

ウ 耐久性があること

エ 実直なこと

c 鼻高々

ア 優位にたっていた相手をだしぬく

イ 得意で自慢らしいようす

ウ 軽蔑^{べつ}して笑うようす

エ あてがはずれて失望するようす

問三 文末の空欄 に入る最も適当な語を次の中から選び符号で答えなさい。

ア 溶ける

イ 消え入る

ウ 燃える

エ 芽ぶく

問四 次の一文を抜いている。文中の「ア」～「エ」のうち、どの箇所に入れるのが適当か、符号で答えなさい。

ぽつと燃えだすイメージを勝手ながら想像した。